

メリッサ； おぼえているかい。
この物語に出ることになった^{わたし}私は
大きなプレゼントを ^{のこ}残すことにしたんだ。

^{ものがたり}物語が始まろうとしている。





メリッサ； 駅から1本の道が続いている。
まっすぐこの一番のっぼの建物まで続いている。
メリッサには夢があったね。
カレンダーは10月になっていた。

ずっと夢のままだったね。
どうすれば夢がかなうだろうか。

メリッサ； そんなときだった。
新聞を広げると『あなたの夢をかなえます』
1ページに大きく 広告が出ていたね。
おどろいたのは その広告主の名前だった。
キシラク市役所 輝くクリスマスツリーにしたかった
あののっぼの建物だよ。

メリッサ； いっきに夢を描き上げたね。
クリスマスツリーは 一番上に光る玉があって
6つの大きな光のリングに包まれてゆく。
のっぼの建物が 輝くクリスマスツリーになって みんなを
楽しませるんだね。

ポストに出してから 1週間, 2週間と過ぎていった。
壁に貼った広告と輝くリングツリーの絵を
何度も何度も見ていたね。
窓の外には いくつもの光が ちらばっていた。

当選者 メリッサ
作品名 光のリングツリー



(点灯時間)
12月24日
午後7時から
60分間

(場所)
キシラク市役所

(プレゼント)
市庁舎を
光のリングツリー
に変えてみせ
よう!

メリッサ; 3週間が過ぎたころ 夢を見たんだね。
あたり一面 雪の積もった街が広がって
のっぽの建物に たくさんの人たちが集まってきた。

見あげると いくつもの光のリングが のっぽの建物を包んでいた。
輝いてきれいだったね。

メリッサ; 4週間が過ぎたね。 発表日まであと9日になった。
おちつかないだろう。覚えているよ。
とうとう 学校の帰りに あののっぽの建物に行ったんだね。
建物1階のロビーには 夕方になっても たくさんの人がいた。
当選者が決まる5日前には 初雪が舞っていたね。
あたりを包むように この街にクリスマスソングが流れはじめた。
そこで白いひげのおじいさんを 初めて見ただろう。
行くたびに よくあったね。

メリッサ; 12月1日だったね。
新聞を広げたとき 1ページ全部に手描きのままの
のっぽの建物の絵と当選者メリッサの名前が
大きく書いてあったね。
『光のリングツリー』と題名が書いてあった。

それから何回も見かけたけど 私からは話しかけられなかった。
できなかったんだよ。 その日までは。
私からは 話しかけてはいけないんだ。
約束だったから。 守らなければいけなかったんだ。

そういえば 1階のロビーで私を じっと見ていたね。